



I 第 46 週の発生動向 (2025/11/10~2025/11/16)

- インフルエンザについては、東津軽+青森市保健所管内及び上北保健所管内の定点当たり報告数が注意報レベルから**警報レベル**となりました。また、中南保健所管内及び下北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**注意報レベル**となり、三戸+八戸市保健所管内及び西北保健所管内では**注意報**が継続しています。引き続き新型コロナウイルス感染症の予防も兼ねて、ワクチン接種を含めた基本的な感染対策の徹底をお願いします。
- 水痘については、上北保健所管内の定点当たり報告数が新たに**警報レベル**となりました。一方、下北保健所管内の警報は**解除**となりました。

※現在、国及び国立健康危機管理研究機構が警報・注意報の基準値について確認を進めているところですが、県の週報に記載する発生動向では、当面の間、従前の基準値を用いて注意喚起を行います。

<感染症の窓>

今週のテーマは「梅毒」です。最終ページに掲載しています。

II 第 46 週五類定点把握対象疾患

※記載データは、速報値です。

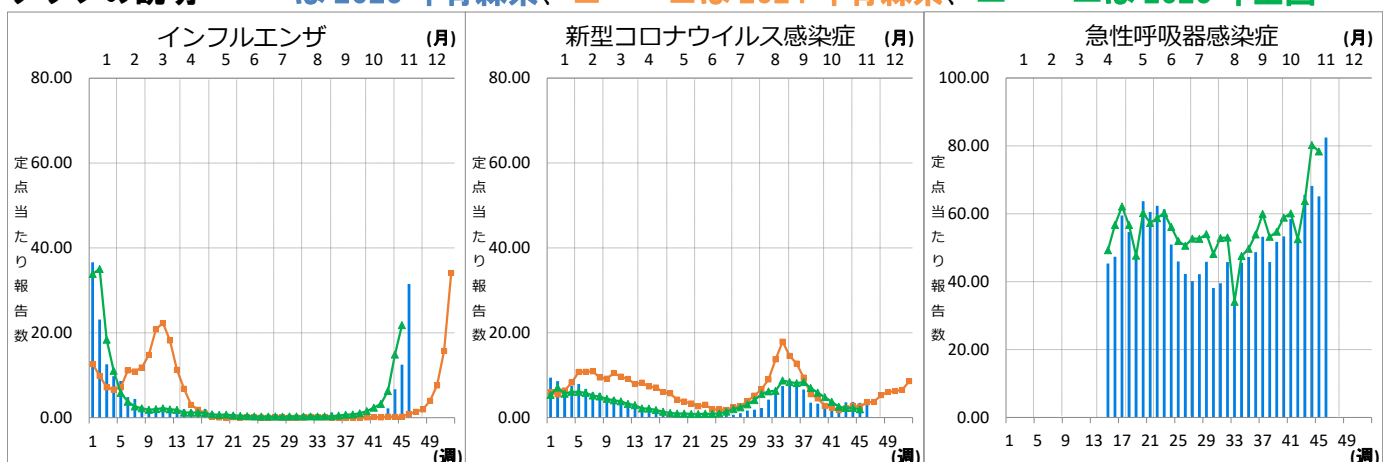
青森県内の保健所管内、定点(医療機関)数、警報・注意報については青森県の感染症発生状況 TOP ページをご覧ください。

は警報、は注意報。「空欄」：患者報告無し。

		東青 (東津軽+ 青森市保健所)		中南 (中南保健所)		三八 (三戸+ 八戸市保健所)		西北 (西北保健所)		上北 (上北保健所)		下北 (下北保健所)		青森県計		前週 からの 増減
		数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	数	人/定点	
急性 呼吸器 感染症	インフルエンザ	445	40.45	189	18.90	299	29.90	119	19.83	416	46.22	170	28.33	1638	31.50	988
	新型コロナウイルス感染症	25	2.27	37	3.70	40	4.00	16	2.67	27	3.00	19	3.17	164	3.15	-18
	急性呼吸器感染症	1323	120.27	565	56.50	704	70.40	403	67.17	870	96.67	422	70.33	4287	82.44	901
小児科	RSウイルス感染症			2	0.33					1	0.17	3	0.75	6	0.18	-7
	咽頭結膜熱					3	0.43	4	0.80					7	0.21	4
	A群溶血性レンガ球菌咽頭炎	3	0.50	3	0.50	8	1.14	1	0.20	7	1.17	9	2.25	31	0.91	11
	感染性胃腸炎	12	2.00	9	1.50	38	5.43	14	2.80			1	0.25	74	2.18	23
	水痘	3	0.50			6	0.86			14	2.33	3	0.75	26	0.76	8
	手足口病															-2
	伝染性紅斑					1	0.14	3	0.60					4	0.12	1
	突発性発しん	2	0.33			3	0.43							5	0.15	-2
	ヘルパンギーナ															-4
	流行性耳下腺炎															0
眼科	急性出血性結膜炎															0
	流行性角結膜炎			1	0.33									1	0.11	0
基幹	感染性胃腸炎(ロタウイルス)															0
	クラミジア肺炎															0
	細菌性髄膜炎															-1
	マイコプラズマ肺炎							6	6.00			9	9.00	15	2.50	8
	無菌性髄膜炎															0

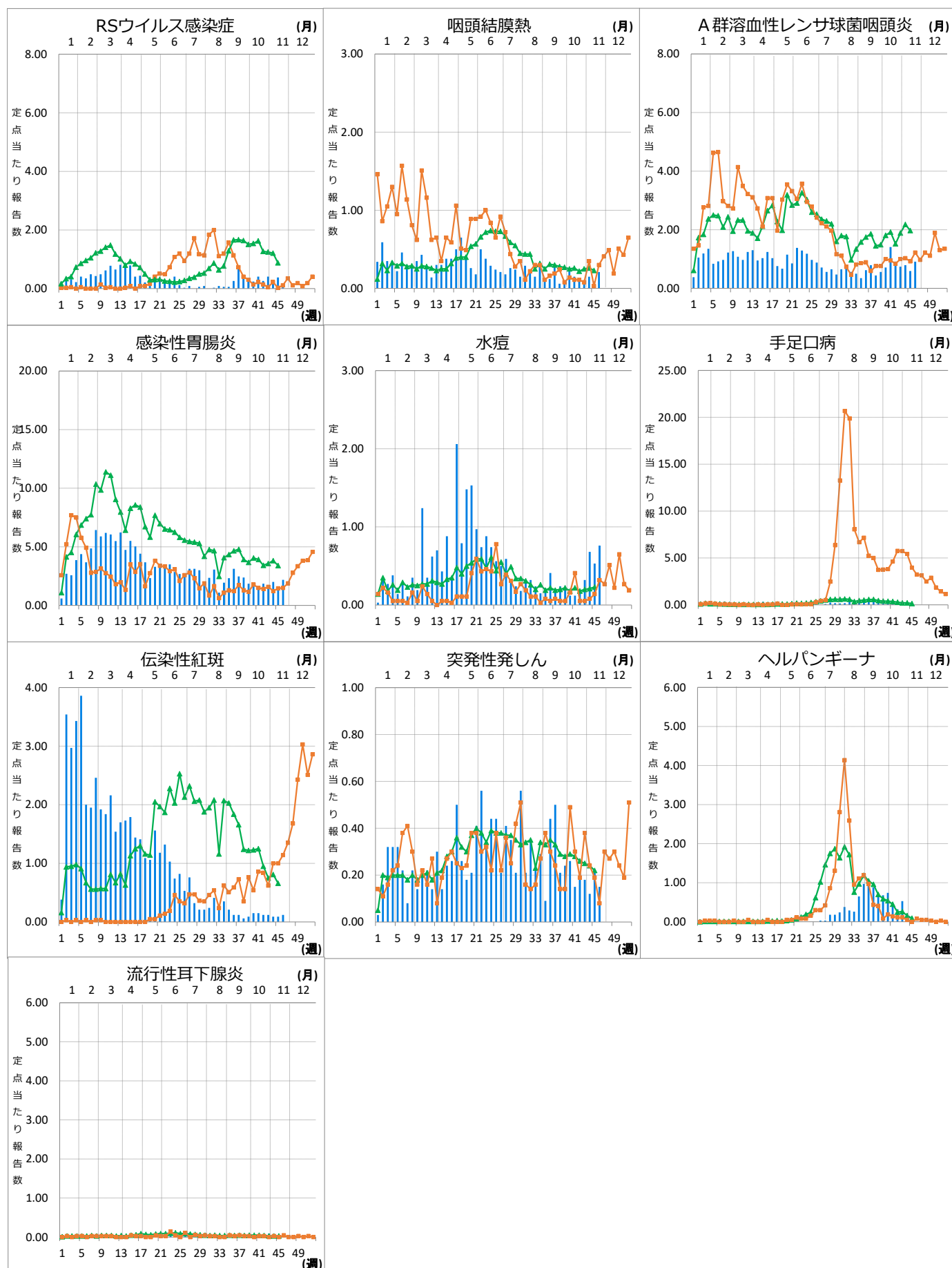
III 定点把握対象疾患週別推移(急性呼吸器感染症定点)(2025 年第 46 週、ただし全国は前週)

グラフの説明 〓は 2025 年青森県、■は 2024 年青森県、▲は 2025 年全国

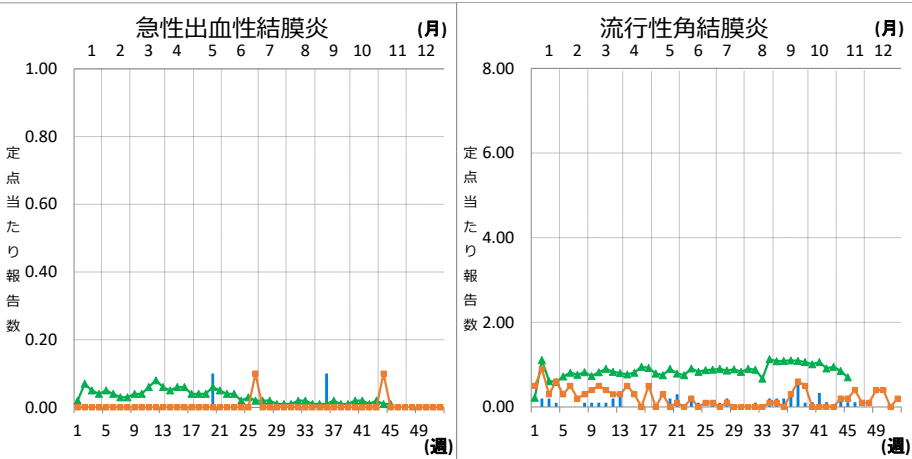


Ⅳ 定点把握対象疾患週別推移（小児科定点）（2025 年第 46 週、ただし全国は前週）

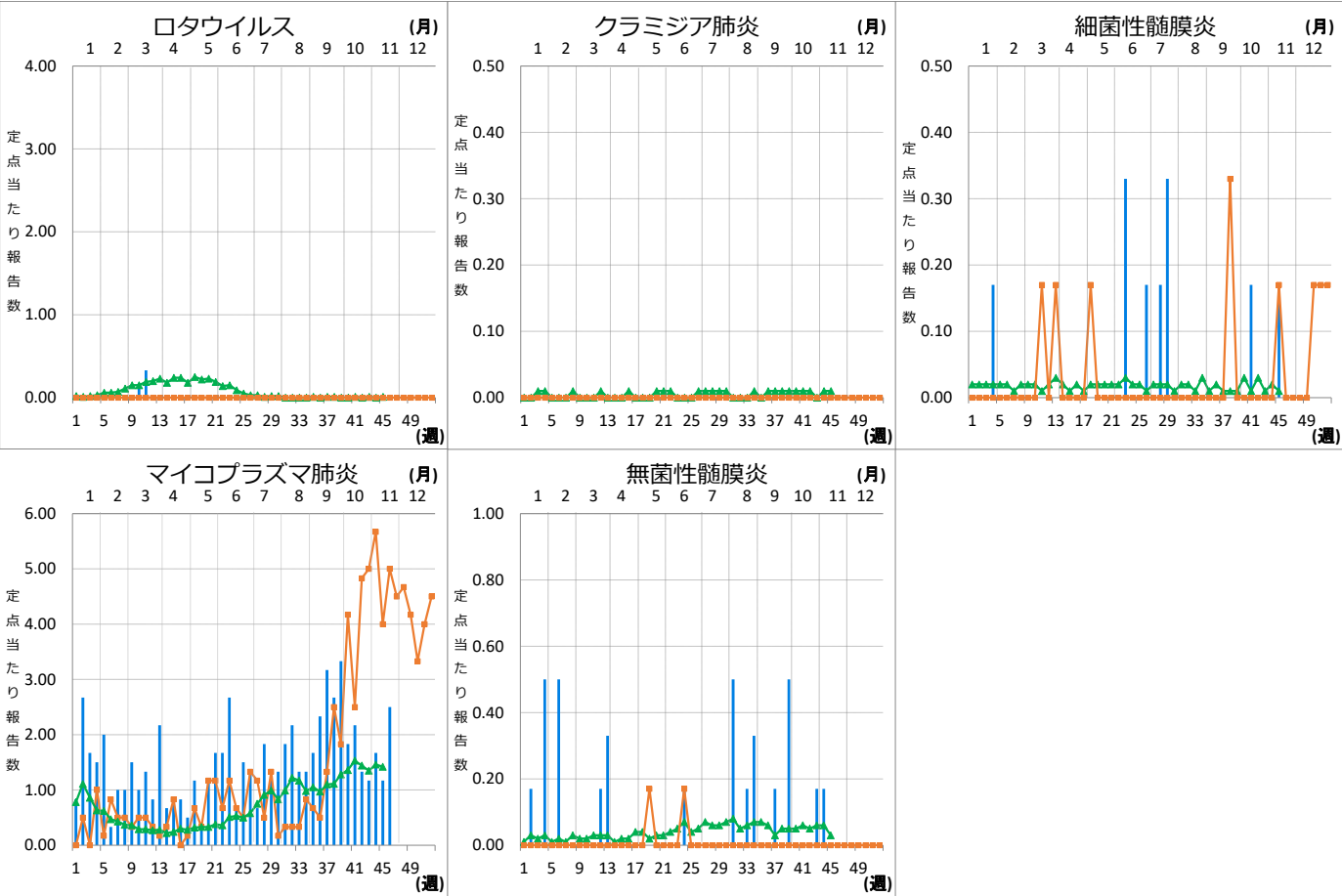
グラフの説明   は 2025 年青森県、 は 2024 年青森県、 は 2025 年全国



V 定点把握対象疾患週別推移（眼科定点）（2025 年第 46 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



VI 定点把握対象疾患週別推移（基幹定点）（2025 年第 46 週、ただし全国は前週）
 グラフの説明👉**——は 2025 年青森県、■——■は 2024 年青森県、▲——▲は 2025 年全国**



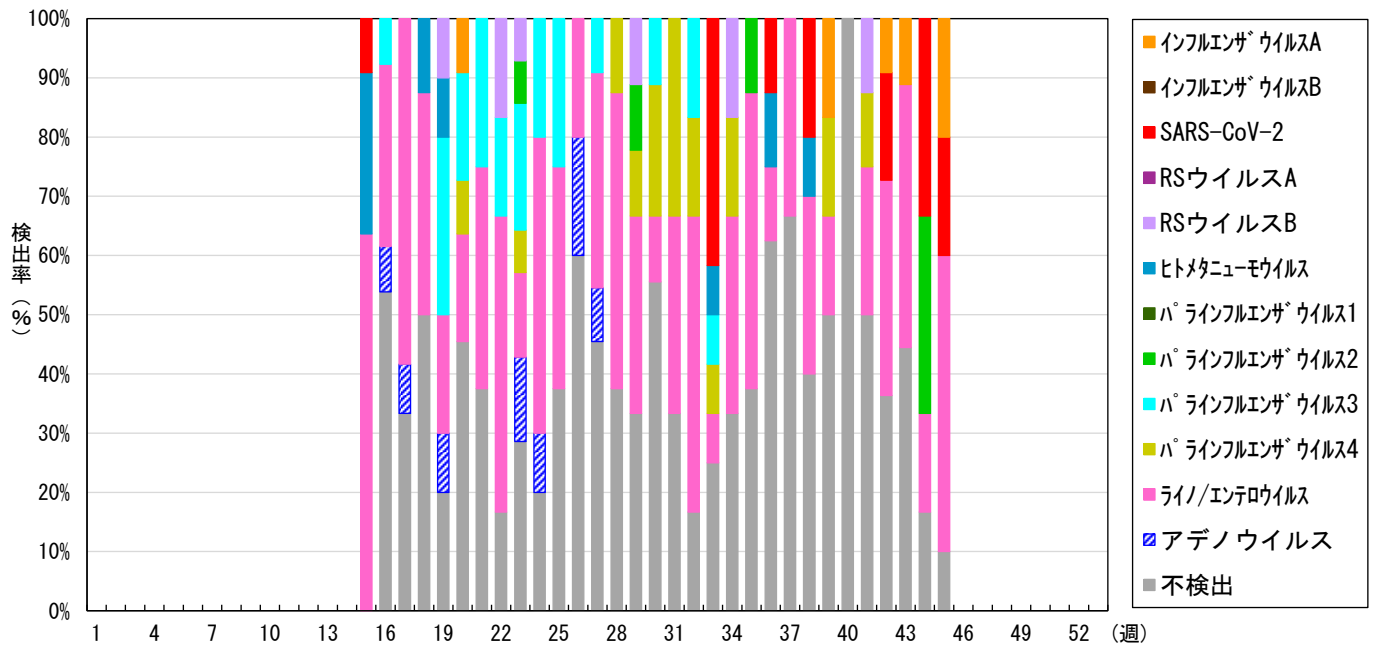
Ⅶ 急性呼吸器感染症(ARI)病原体検出情報

(1) 急性呼吸器感染症病原体定点からの提出検体数及び結果判明分 (2025 年第 39～46 週)

急性呼吸器感染症	2025年							
	39週	40週	41週	42週	43週	44週	45週	46週
提出検体数	6	6	8	11	9	5	10	7
インフルエンザウイルスA	1	0	0	1	1	0	2	
インフルエンザウイルスB	0	0	0	0	0	0	0	
SARS-CoV-2	0	0	0	2	0	2	2	
RSウイルスA	0	0	0	0	0	0	0	
RSウイルスB	0	0	1	0	0	0	0	
ヒトメタニューモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス1	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス2	0	0	0	0	0	2	0	
パラインフルエンザウイルス3	0	0	0	0	0	0	0	
パラインフルエンザウイルス4	1	0	1	0	0	0	0	
ライノ/エンテロウイルス	1	0	2	4	4	1	5	
アデノウイルス	0	0	0	0	0	0	0	
不検出	3	6	4	4	4	1	1	
検査待ち	0	0	0	0	0	0	0	7

※第44週に提出された検体のうち、ヒトパラインフルエンザウイルス2及びライノ／エンテロウイルスが重複して検出されたものが1検体ありました。

(2) 検出された病原体の週別推移 (2025 年第 15 週～)



Ⅷ 全数把握対象疾患発生状況（第 46 週）

- ・結核（二類感染症）：青森市 1 人、八戸市 1 人 (2025 年計： 101 人)
- ・腸管出血性大腸菌感染症（三類感染症）：中南 1 人 (2025 年計： 37 人)
- ・水痘（入院例）（五類感染症）：青森市 1 人 (2025 年計： 1 人)
- ・百日咳（五類感染症）：青森市 1 人、中南 1 人 (2025 年計： 749 人)

Ⅸ 保健所管内別全数把握対象疾患発生状況（2025 年第 43 週～2025 年第 46 週）

週	東青 （東津軽保健所+ 青森市保健所）	中南 （中南保健所）	三八 （三戸保健所+ 八戸市保健所）	西北 （西北保健所）	上北 （上北保健所）	下北 （下北保健所）
43	結核1人	百日咳2人	百日咳4人	百日咳1人	百日咳1人	
44	結核1人 レジオネラ症1人 百日咳2人	梅毒1人 百日咳1人	つつが虫病2人		侵襲性肺炎球菌感染症1人	
45		結核1人 レジオネラ症1人 百日咳2人	百日咳1人			
46	結核1人 水痘（入院例）1人 百日咳1人	腸管出血性大腸菌感染症1人 百日咳1人	結核1人			

第 45 週に、百日咳の届出が中南保健所管内で 1 件ありましたので追加しました。

X 全数把握対象疾患発生状況（全国-青森県）（注：発生状況は速報値であり、国内で届出のあった疾患のみを掲載しています）

全国（2025 年第 1 週～第 45 週までの累計）										
分類	二類	三類	三類	三類	三類	三類	四類	四類	四類	四類
疾病名	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス	E型肝炎	A型肝炎	エキノкокクス症	エムボックス
累積報告数	12192	4	51	3854	28	8	506	119	26	8
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類
疾病名	オウム病	回帰熱	コクシジオイデス症	重症熱性血小板減少症候群	ダニ媒介脳炎	チクングニア熱	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	日本脳炎
累積報告数	10	6	6	184	2	20	112	149	647	2
分類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	ブルセラ症	ボツリヌス症	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症
累積報告数	1	1	19	16	1	2125	55	386	214	1065
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	急性弛緩性麻痺	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性髄膜炎菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症
累積報告数	31	476	23	158	1187	732	33	576	69	2891
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	水痘（入院例）	梅毒	播種性クリプトコックス症	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	百日咳	風しん	麻しん	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
累積報告数	575	11957	150	84	79	85476	10	233	9	

青森県（2025 年第 1 週～第 46 週までの累計）

分類	二類	三類	四類	四類	四類	四類	四類	五類	五類	五類
疾病名	結核	腸管出血性大腸菌感染症	E型肝炎	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	レジオネラ症	アメーバ赤痢	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	急性脳炎
累積報告数	101	37	1	17	1	1	11	1	9	1
分類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類	五類
疾病名	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症	侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例)	梅毒	破傷風	百日咳	
累積報告数	4	5	2	4	15	1	20	1	749	

XI 病原体検出情報 ※（ ）内は、検査材料及び検体採取日
つつが虫病疑い患者（血清、痂皮、10/26～10/29）・・・Orientia tsutsugamushi（Karp 型）：八戸市 2 人

XII 社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑い含む）の発生状況

「社会福祉施設等における感染症等発生時に係る報告について」（平成18年2月22日付け厚生労働省健康局長、医薬食品局長、雇用均等・児童家庭局長、社会・援護局長通知）に基づく、青森県内の社会福祉施設等における感染性胃腸炎（疑いを含む）の報告件数及び発症者数は次のとおりです。

2025 年第 46 週

報告週	施設種別	発症者数	管轄保健所
第46週	報告なし		

2025 年報告件数及び症者数

月(週)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月				12月	計
施設種別		1-5週	6-9週	10-13週	14-17週	18-22週	23-26週	27-31週	32-35週	36-39週	40-44週	45週	46週	47週	48週	49-52週	(施設別)
介護・老人福祉関係施設	件数	1	4	4	4	1	0	0	0	0	0	0	0				14
	発症者数	7	70	69	78	11	0	0	0	0	0	0	0				235
児童・婦人関係施設等	件数	4	10	8	7	1	3	1	1	0	0	0	0				35
	発症者数	74	228	136	128	25	50	22	13	0	0	0	0				676
障がい関係施設	件数	0	2	2	1	1	0	1	0	0	0	0	0				7
	発症者数	0	37	25	10	5	0	11	0	0	0	0	0				88
その他施設	件数	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0				1
	発症者数	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0				10
計(月別)	件数	5	16	14	12	3	4	2	1	0	0	0					57
	発症者数	81	335	230	216	41	60	33	13	0	0	0					1009

感染症の窓

梅毒は、梅毒トレポネーマの感染によって生じる感染症で、誰でも感染しうる病気です。近年、日本で梅毒の感染者が急増しています（図）。梅毒は、主に性的接触により、口や性器などの粘膜や皮ふから感染します。

梅毒に感染すると、3週間から6週間程の潜伏期間を経て全身に様々な症状が現れ、検査や治療が遅れたり、治療せずに放置していると、長期間の経過で心臓や血管、脳などの複数の臓器に病変が生じ、場合によっては死に至ることがあります。発症後は症状が軽くなったり一時的に消えたりする時期があるため、感染に気付きにくく、治療の開始が遅れてしまう危険があります。

梅毒は、いったん完治しても再感染を予防する免疫が得られない感染症であるため、完治後も適切な予防策が講じられていなければ、再度感染する危険性があることに注意が必要です。

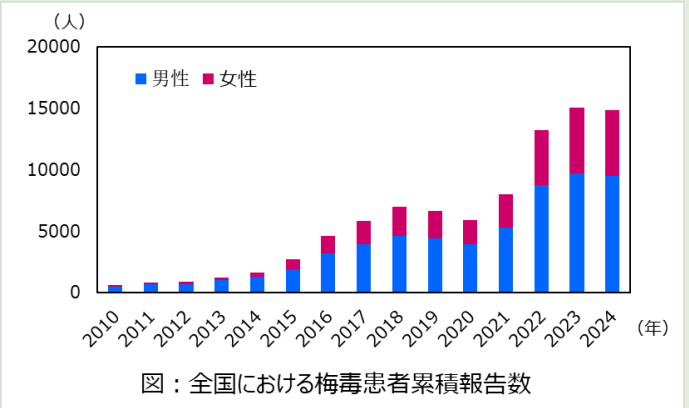
また、妊娠している女性が梅毒に感染すると、流産や死産のリスクが高まります。また、母子感染によって赤ちゃんが梅毒にかかった状態で生まれる「先天梅毒」となることがあります。

梅毒は、感染者の体液が、非感染者の粘膜や傷口などと直接接触することによって感染しますが、実際には性的な接触によって感染するケースがほとんどです。性交渉の際は、コンドームを適切に使用しましょう。

梅毒は早期の適切な抗菌薬治療で完治が可能な病気です。梅毒が疑われる症状や感染の心当たりがあるときは、すぐに検査を受け、早期発見・早期治療を心がけましょう。



梅毒



○詳しい情報はこちらをご覧ください。

☞梅毒患者が急増中！検査と治療であなた自身と大切な人、生まれてくる赤ちゃんを守ろう(政府広報オンライン)